

## 令和4年度 第4回牧区地域協議会 次第

日時：令和4年6月21日（火）

午後7時から

会場：牧区総合事務所301会議室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

### 3 報告事項

- (1) 中山間地域農業の維持・振興に向けたワークショップの開催状況と今後の展開について（板倉区総合事務所）

### 4 協議事項

- (1) 令和4年度牧区地域協議会委員視察研修について・・・・・・・・・・資料No.1

### 5 自主的審議事項

- (1) あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について・・資料No.2

### 6 その他（連絡事項）

- ・「牧区地域協議会だより（第55号）」6月25日号発行について
- ・4区地域協議会委員合同研修について

### 7 閉 会

- ・次回（第5回牧区地域協議会） 月 日（ ） 時 分～

中山間地域農業の維持・振興に向けた  
地域自治区別ワークショップ(みらい農業づくり会議)  
開催状況及び今後の展開

令和4年6月21日(火)

上越市中山間地域元気な農業づくり推進協議会  
牧区推進チーム

# 令和3年度における開催状況及び今後の展開について

# 中山間地域農業の維持・振興 「ありたい姿」(将来の方向性)

地域農業者が  
主体的に議論し、  
共有する

## 課題解決に向けたテーマ別方策

担い手・後継者の確保



農業生産維持に向けた  
作物選定・所得確保



農業機械・スマート農機の  
共有化・共同利用



土地利用の明確化・  
農地条件の改善



## 活動のエンジンとなる組織

市の役割

推進チーム(市・県・JA・農業委員会)として

「ありたい姿」の実現に向けて定められた方策に対する各種支援

令和3年度

幅広い参加者が率直な意見・考えを出し合い、  
中山間地域農業のあるべき姿、理想的な姿を共有し、  
4つのテーマごとに、実現に必要な取組を見出す

令和4年度

- 見出された必要な取組の具体化を検討・共有  
「いつ」 「誰が」 「どうやって」
- 取組を下支えする「活動のエンジンとなる組織」の検討

令和5年度以降

共有された取組の実践

中山間地域等直接支払交付金 集落戦略の作成などの各種施策へも反映

- ・ 中山間地域等直接支払制度に取り組む地区がある

## 7の地域自治区で各2回開催

～理想的な中山間地域農業のあるべき姿を広域的観点で探る

- ・ 直接支払集落協定や集落の役員だけでなく、

## 若手や女性など幅広い世代の農業者が参加

～発言しやすい環境づくりのため、性別・年代を偏らせたグループ編成

- ・ 話し合いを促すファシリテーターとして

## 市、県、農業委員会、農協で構成する「推進チーム」を編成

～各々が担当する立場で、地域の意見を吸い上げる心構えで臨む

# 延べ14回・444名が議論に参加

**谷浜・桑取区**  
12月14日(火)・3月29日(火)  
延べ60名参加

**吉川区**  
11月19日(金)・3月23日(水)  
延べ63名参加

**大島区**  
11月30日(火)・3月24日(木)  
延べ69名参加

**名立区**  
8月20日(金)・12月21日(火)  
延べ69名参加

**安塚区**  
11月25日(木)・3月25日(金)  
延べ65名参加

**板倉区**  
11月26日(金)・3月22日(火)  
延べ56名参加

**牧区**  
11月29日(月)・3月23日(水)  
延べ62名参加

※浦川原区:明治大学主導のフューチャーデザイン・ワークショップ  
※中郷区・清里区:新潟県主導のビレッジプラン  
※柿崎区:第5期対策開始時に協定広域化議論実施済

第1回開催(令和3年12月まで)

第2回開催(令和4年3月まで)

人・農地・地域の  
「強み」「弱み」  
の洗い出し

「強み」を伸ばし、  
「弱み」を克服する  
“方策”の検討

第1回で出た意見を踏まえて  
取組方向性や  
キャッチフレーズ(CP)  
の決定

取組方向性やCPを踏まえて  
今取り組めるもの、  
将来取り組むべきもの  
の検討

ワークショップ参加者の約束ごと

気軽に、楽しく、中身濃く

- ・自分ばかり話しません
- ・相手の意見を否定しません
- ・楽しい雰囲気を大切にします
- ・参加者は対等です
- ・皆が気持ちよく話せるようにします



## 第1回 地域の「強み」「弱み」と「方策」の洗い出し

## 第2回 方向性の決定と必要な取組の検討



### 集計結果から見えた最優先で取り組むべき項目

- A 「人口減少・少子高齢」を一定程度受容しつつ、「人間性・地域性」を活かし、「人・担い手」を呼び込む
- B 「特徴・自慢・素材」を活かし、「活力・付加価値」を高める
- C 「人・担い手」の強みを活かして、「作業性・生産性」を向上

意見の数から  
優先順位付け

出された意見をつないで、テーマ別に「方向性」を見出し、2回目で検討・決定

### 将来に向けた方向性

担い手・後継者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 空き家を活用した移住の手法を検討します。</li> <li>• ボランティアの募集・受入体制を整備します。</li> <li>• 女性の農業参入を促進するため、環境を整備し、将来的には農業で集落内外の人材を雇用します。</li> </ul>
農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 牧区の自然を活用した販売促進、イベントの開催を検討します。</li> <li>• 様々なメディア(媒体)を使用し、牧区の魅力や歴史、商品をPRします。</li> </ul>
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各生産組合・農事組合法人で連携し、スマート農業の導入を検討します。</li> </ul>
土地利用の明確化・農地条件の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 将来的に、基盤整備(農地・農道・水路・ため池)の構想を検討します。特に水不足に対応するため、既存のため池の有効利用も含めて、用水の確保をします。</li> </ul>
活動のエンジンとなる組織の育成強化(上記を下支え)	

参加者の率直な考えを付箋に書き出し、  
関連するカテゴリーに分類するとともに、さらにグルーピング  
牧区では、

## 付箋枚数256枚

に及ぶ強み・弱み・方策を洗い出し

## 第2回 方向性の決定と必要な取組の検討

### 集計結果から見えた最優先で取り組むべき項目

- A 「人口減少・少子高齢化」を一定程度受容しつつ、「人間性・地域性」を活かして、「人・担い手」を確保
- B 「特徴・自慢・素材」を活かして、「活力・付加価値」を創造
- C 既存の「作業性・生産性」の強みを活かして、更に向上

出された意見をつないで、テーマ別に「方向性」を見出し、2回目で検討・決定

### 将来に向けた方向性

担い手・後継者の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き家を活用した移住の手法を検討します。</li> <li>・ ボランティアの募集・受入体制を整備します。</li> <li>・ 女性の農業参入を促進するため、環境を整備し、将来的には農業で集落内外の人材を雇用します。</li> </ul>
農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 牧区の自然を活用した販売促進、イベントの開催を検討します。</li> <li>・ 様々なメディア(媒体)を使用し、牧区の魅力や歴史、商品をPRします。</li> </ul>
農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各生産組合・農事組合法人で連携し、スマート農業の導入を検討します。</li> </ul>
土地利用の明確化・農地条件の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 将来的に、基盤整備(農地・農道・水路・ため池)の構想を検討します。特に水不足に対応するため、既存のため池の有効利用も含めて、用水の確保をします。</li> </ul>

活動のエンジンとなる組織の育成強化(上記を下支え)

## ①キャッチフレーズの決定

牧区らしさである

自然・棚田・人情を活かし、  
SNSでのPRにより、  
美味しさを世界へお届けします

## ②将来に向けた方向性と

キャッチフレーズを踏まえた  
必要な取組の検討

「今取り組めるもの」

「将来取り組むべきもの」の検討

# 令和3年度における地域自治區別ワークショップの開催状況 ～キャッチフレーズ・将来の方向性～

地域自治区	キャッチフレーズ	将来の方向性			
		担い手・後継者の確保	作物選定・所得確保	機械共同化・スマート農機導入	土地利用・農地条件
谷浜・桑取区	谷浜・桑取区らしきである海から山までの地域資源を活かし、地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします	<ul style="list-style-type: none"> <li>谷浜・桑取区の「らしき」「ならでは」であるNPOや生産組合等の既存組織の活力、歴史や伝統の継承、人と人とのつながりなどを活かし、「見る」から「体験」までのきっかけづくりを大切に農業と地域の担い手確保、コロナ禍における第2のふるさとづくりに努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊富な山・海のめぐみや貴重な地域資源を活かした食のブランド化に向けた取組を推進します。</li> <li>谷浜・桑取区の今(ひと・食・伝統・くらし など)を発信し、さらなるファンづくりに努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。</li> <li>「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊富な水資源や水源涵養活動を活かし、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。</li> <li>その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。</li> </ul>
安塚区	安塚区らしきである豊かな自然と雪を活かし、ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします	<ul style="list-style-type: none"> <li>担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。</li> <li>将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。</li> <li>豊かな自然環境を活かして、定住化(UIJターン)に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキー場と温泉の交流人口を活かした情報発信を行い、豊かな環境のもとで作られた農産物売り込みます。</li> <li>雪室を活用した農産物の高付加価値化を図るとともに、様々な販売ルートを通じて、安塚区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。</li> <li>雪室を利用した特産品を開発します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。</li> <li>「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。</li> <li>その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。</li> </ul>
大島区	大島区らしきである人や物・自然の豊かさを活かし、楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします	<ul style="list-style-type: none"> <li>担い手不足を補うため、地域のまとまりを活かし、新規就農者(農ガールも！)や移住者の受入体制を整えます。</li> <li>将来に向けて、農地の管理、栽培、コメの販売までを手掛ける集落営農法人の設立を目指します。</li> <li>豊かな自然環境を活かして、定住化(UIJターン)に取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SNS等を活用して、豊かな自然環境やホテルなどの地域の宝をPRし、農業体験イベントを通じた交流を促進します。(結果として、農産物の販売促進や担い手・後継者の確保にもつながる)</li> <li>棚田米等の高付加価値化を図り、様々な販売ルートにより大島区の農産物(米、山菜等)を販売し、地域全体の増収を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。</li> <li>「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度に、地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。</li> <li>その上で、将来を見据えた計画的な農地、農道、水路、ため池の整備・修繕等を実施します。</li> </ul>
牧区	牧区らしきである自然・棚田・人情を活かし、SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家を活用した移住の手法を検討します。</li> <li>ボランティアの募集・受入体制を整備します。</li> <li>女性の農業参入を促進するため、環境を整備し、将来的には農業で集落内外の人材を雇用します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>牧区の自然を活用した販売促進、イベントの開催を検討します。</li> <li>様々なメディア(媒体)を使用し、牧区の魅力や歴史、商品をPRします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各生産組合・農事組合法人で連携し、スマート農業の導入を検討します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来的に、基盤整備(農地・農道・水路・ため池)の構想を検討します。特に水不足に対応するため、既存のため池の有効利用も含めて、用水の確保をします。</li> </ul>
吉川区	吉川区らしきである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、移住の促進と交流人口の拡大することにより、担い手農家の確保・育成を図ります	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。</li> <li>将来に向けて、広域的な集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。</li> <li>将来的には、移住・定住者を増やします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉川区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「吉川ブランド」を確立させます。</li> <li>SNSやネット販売などを通じて吉川ブランドを発信します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。</li> <li>「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体化な対策を講じます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度に行った「集落戦略」を見直し、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地を明確化します。</li> <li>その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。</li> </ul>
板倉区	板倉区らしきである米とソバの美味しさを活かし、インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます	<ul style="list-style-type: none"> <li>移住者の受け入れを促進します。</li> <li>将来的に、空き家を活用した移住者向け住宅整備を検討します。</li> <li>ボランティアの募集・受入体制を整備します。</li> <li>将来的に、人材(リーダー)育成組織の立ち上げを検討します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソバの生産・販売を強化します。</li> <li>板倉区や農業の良さをPRする手法を検討します。</li> <li>雪や観光地を活用した販売方法を検討します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平場の農業者と連携し、スマート農業の導入や中山間地域・平場の共同による農地と農業用施設の維持管理を目指します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度に行う「集落戦略の作成」において、第6期対策(令和7年度～)に向けて守るべき農地・活用可能な農地を線引きします。</li> <li>その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業用施設の整備・修繕等を実施します。</li> </ul>
名立区	名立区らしきである豊富な資源を活かし、地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域のまとまり」を活かし、非農家の協力や担い手への集積など、地域内でできる対策を講じます。</li> <li>将来に向けて、集落営農・法人化など新たな農業生産体制への移行を目指します。</li> <li>将来的には、移住・定住者を増やします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名立区「らしき」「ならでは」を活かし、「山・水・農・海」のパッケージ化と「歴史・文化」のストーリー化により「名立ブランド」を確立させます。</li> <li>SNSやネット販売などを通じて名立ブランドを発信します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存制度を有効活用した先進機器導入や将来を見据えた機械の共同利用を促進します。</li> <li>「担い手・後継者」「土地利用・農地条件」に関する取組とあわせて一体的な対策を講じます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の農地・農業施設を将来にわたって維持していくための対策の検討(集落戦略の作成)を令和4年度中に行い、将来に向けて守るべき農地等を明確にします。</li> <li>その上で、将来を見据えた計画的な農地・農業施設の整備・修繕等を実施します。</li> </ul>

谷浜・桑取区

谷浜・桑取区らしきである海から山までの地域資源を活かし、  
地域内外の人との交流により、桑谷ファンを増やします

安塚区

安塚区らしきである豊かな自然と雪を活かし、  
ひと手間とブランド化により、持続可能な農業をめざします

大島区

大島区らしきである人や物・自然の豊かさを活かし、  
楽しい農業や地域のつながりにより、人生の楽園をめざします

牧区

牧区らしきである自然・棚田・人情を活かし、  
SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします

吉川区

吉川区らしさである人のあたたかさや自然の多様性を活かし、  
移住の促進と交流人口の拡大することにより、  
担い手農家の確保・育成を図ります

板倉区

板倉区らしさである米とソバの美味しさを活かし、  
インターネットにより、板倉の農業を世界に広げます

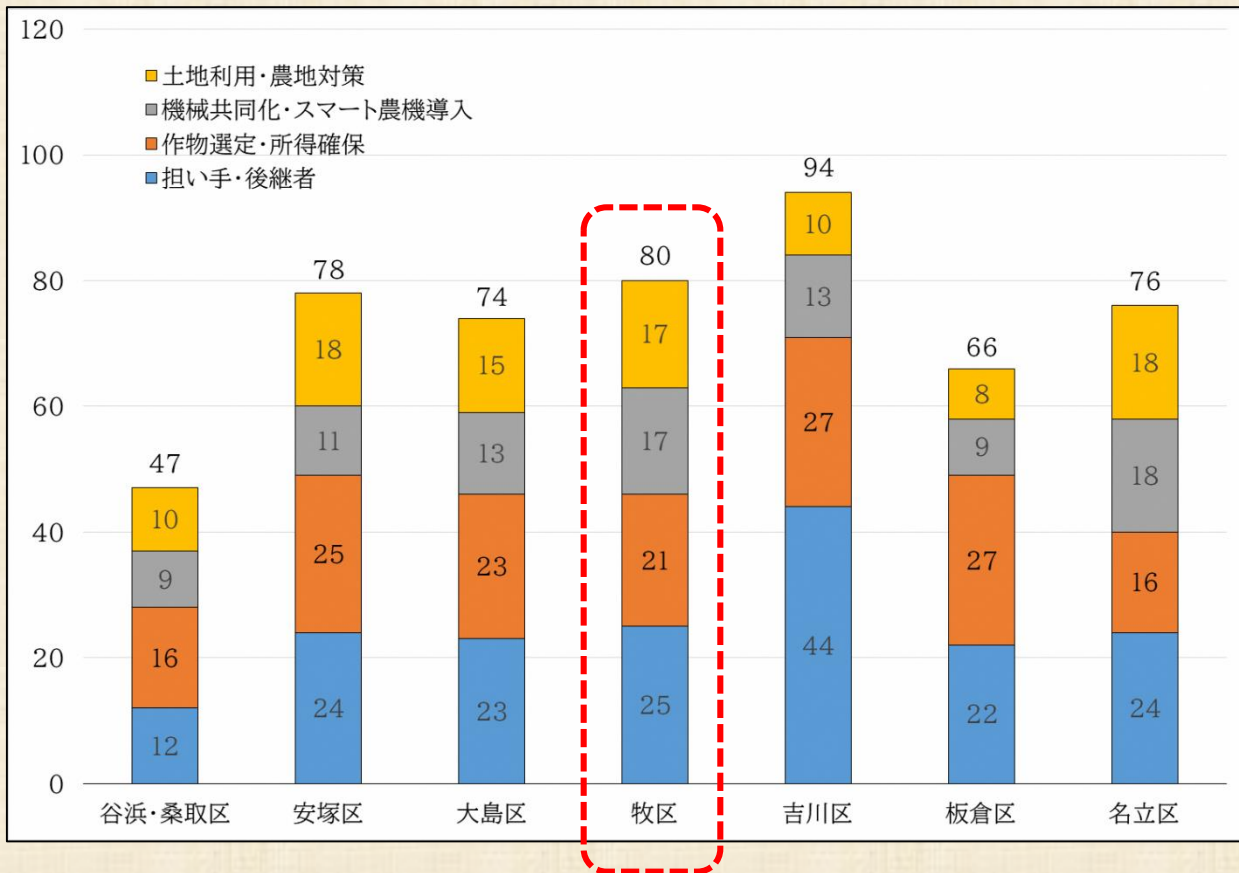
名立区

名立区らしさである豊富な資源を活かし、  
地域の連携や発信により、名立を日本中に売り込みます

## 令和3年度における地域自治区別ワークショップの開催状況 ～見出された取組の例～

課題解決に向けたテーマ	見出された取組の例	
	今取り組めるもの	将来取り組むべきもの
担い手・後継者の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業経験の少ない若者をサポートする仕組みづくり</li> <li>空き家の紹介、PR方法の検討</li> <li>空き家のバリアフリー化(リノベーション)</li> <li>農業体験、田舎体験をしながらのボランティア</li> <li>牧区ならではの特典をつけた移住促進の検討</li> <li>女性に農業を知ってもらうため、学生や親子対象の農業体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家利用組合を立ち上げる</li> <li>農業者、組織を構成する法人組織を作り、人を雇う</li> <li>農業就労バンクの設立</li> <li>若い女性が楽しく、働きやすく農作業ができる「NORAGI」開発</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           空き家活用と新規就農に関することが多い         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;">           女性の新規就農者増に向けた取組への志向が高い         </div>
作物選定・所得確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性が参加しやすい農業イベントの開催</li> <li>農業女子に特化した新たな商品開発</li> <li>漬物以外の新たな加工品の開発</li> <li>SNSを活用した情報発信、商品PR</li> <li>牧の一番の宝物＝ばあちゃんたちが元気なうちに人を呼ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>副業的農業者を街場から募る</li> <li>海外販路開拓</li> <li>分散している、生産・加工・販売を一元化する</li> <li>雪室貯蔵によるコメの販促(粳での貯蔵など)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;">           新たな加工品、情報発信への志向が高い         </div>
機械共同化・スマート農機導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>法人や生産組合でリモコン草刈機を購入</li> <li>ドローンの共同購入、共同利用</li> <li>スマート農機の実演会</li> <li>農業の3K(キタイ、キツイ、カゲナイ)イメージを変える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各法人、法人で農機を導入し、牧で共同利用</li> <li>スマートフォン等による用水管理、箱罫管理</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;">           スマート農機の導入、省力化への志向が高い         </div>
土地利用・農地条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業用施設の現状確認(特に用水路)</li> <li>ため池の保全と水路整備</li> <li>暗渠排水の整備</li> <li>農道のアスファルト舗装、乗入口の整備(農作業事故防止)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>揚水式ため池の設置</li> <li>条件の良い圃場の集約化、基盤整備</li> <li>維持管理がしやすい施設整備の促進</li> <li>農地を守るためコメ以外の作物を考える</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;">           農業用施設の整備圃場整備に関する志向が高い         </div>

各区におけるテーマ別取組数  
(区内での関心度)



テーマ別取組構成比率の各区と7区全体との差  
(市内における関心度の差)

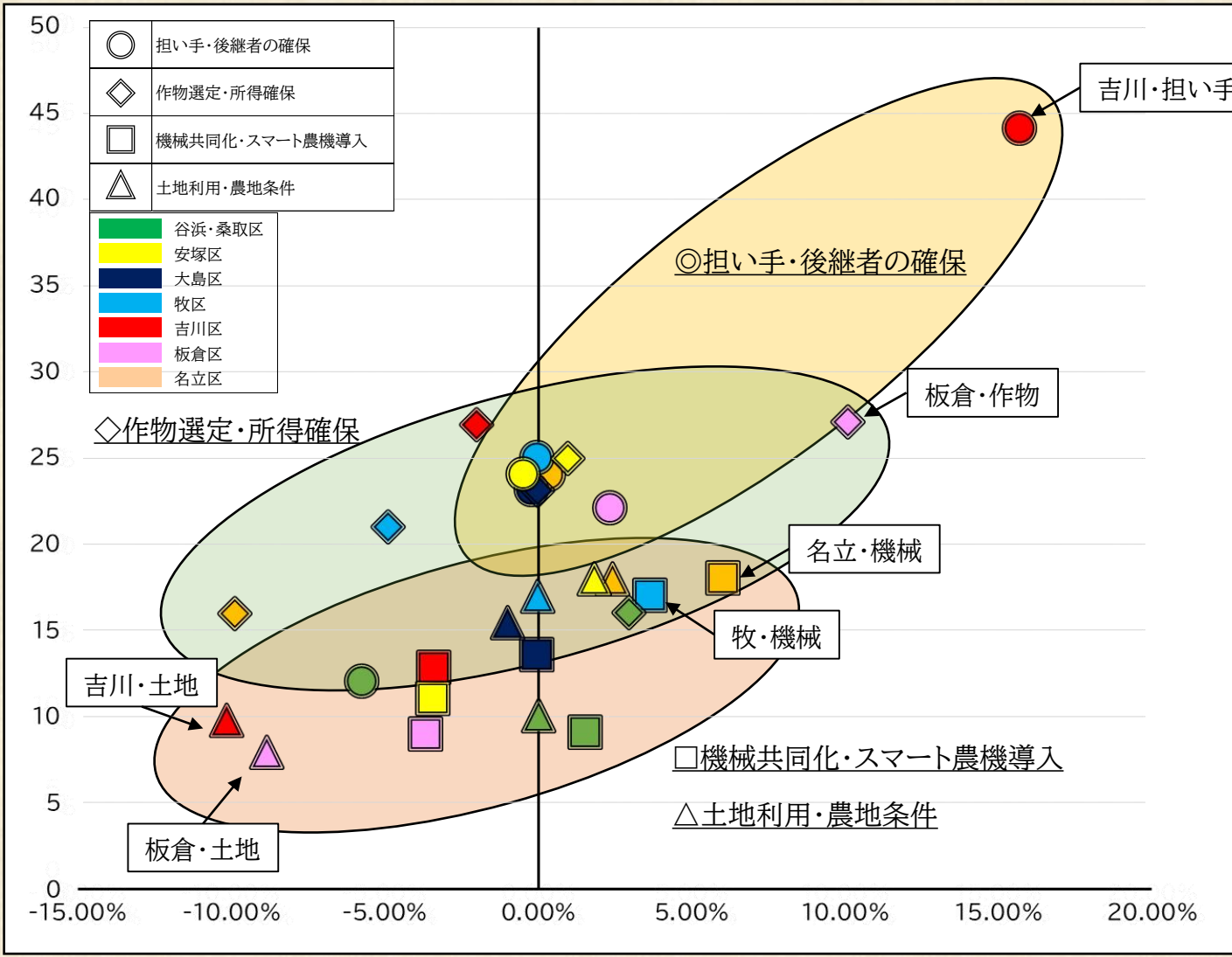


「担い手・後継者」に関する取組が多く見出され、  
次いで、「作物選定・所得確保」に関する取組が多い傾向に

牧区では「機械共同化・スマート農機導入」が  
市内平均に比べて、高い比率に

第2回目で見出された取組の数と地区別傾向

(区内での関心度)



各区構成比率と7区構成比率との差  
(市内における関心度の地域差)

◎担い手・後継者の確保

- ほぼ全ての区で見出された取組数が最も多くなっており、関心が高い取組と考えられる。
- 吉川区で取組数と構成比率差が特に突出している。

◇作物選定・所得確保

- 「担い手」に次いで取組数が多く見出されているが、各地区で構成比率差が大きい。
- 板倉区で取組数と構成比率差が+で突出している。

□機械共同化・スマート農機導入

- 「担い手」や「作物」に比べると取組数が少ないが、牧区や名立区では構成比率差が+で大きくなっており、関心が高いものと考えられる。

△土地利用・農地条件

- 「機械」と同様に「担い手」や「作物」に比べると取組数が少なく、特に吉川区と板倉区では構成比率差が- (マイナス) で大きくなっている。



6月

第3回みらい農業づくり会議

グループワーク

10月

第4回みらい農業づくり会議

第2回目の議論で見出された  
テーマ別の「必要な取組」  
  
「今取り組めるもの」  
「将来取り組むべきもの」  
  
を、グループワークでの  
議論材料として整理

担い手・後継者の確保

作物選定・所得確保

機械共同化・スマート農機導入

土地利用・農地条件

活動のエンジンとなる組織

グループワークでの  
議論を集約化し、  
**地域将来ビジョン**  
  
として決定・共有

課題解決のテーマ別に取り組の具体化を議論  
(いつ、誰が、どうやって)

各種取組を展開

# 令和4年度における地域自治区別ワークショップの進め方 ～第3回会議の進め方①

第2回牧区みらい農業づくり会議  
令和4年3月23日(水) Aグループ

担い手・後継者の確保・育成	農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	土地利用の明確化・農地条件の改善
<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空き家を活用した移住の手法を検討します。</li> <li>ボランティアの募集・受入体制を整備します。</li> <li>女性の農業参入を促進するため、環境を整備し、将来的には、農業で集落内外の人材を雇用します。</li> </ul>	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>牧区自然を活用した販売促進、イベントの開催を検討します。</li> <li>様々なメディア(媒体)を使用し、牧区の特長をPRします。</li> </ul>	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各生産組合・農事組合法人で連携し、スマート農業の導入を検討します。</li> </ul>	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来的に、基礎整備(農地・農道・水路・ため池)の構想を検討します。特に水不足に対応するため、既存のため池の有効利用も含めて、用水の確保をします。</li> </ul>
<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>空き家活用 ボランティアの募集・受入体制 女性の農業参入</p>	<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>販売促進 イベント開催 メディア活用</p>	<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>スマート農業の導入</p>	<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>基礎整備 水不足対策</p>
活動のエンジンとなる組織の育成強化			

第2回牧区みらい農業づくり会議  
令和4年3月23日(水) Bグループ

担い手・後継者の確保・育成	農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	土地利用の明確化・農地条件の改善
<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空き家を活用した移住の手法を検討します。</li> <li>ボランティアの募集・受入体制を整備します。</li> <li>女性の農業参入を促進するため、環境を整備し、将来的には、農業で集落内外の人材を雇用します。</li> </ul>	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>牧区自然を活用した販売促進、イベントの開催を検討します。</li> <li>様々なメディア(媒体)を使用し、牧区の魅力や歴史、商品をPRします。</li> </ul>	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各生産組合・農事組合法人で連携し、スマート農業の導入を検討します。</li> </ul>	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来的に、基礎整備(農地・農道・水路・ため池)の構想を検討します。特に水不足に対応するため、既存のため池の有効利用も含めて、用水の確保をします。</li> </ul>
<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>空き家活用 ボランティアの募集・受入体制 女性の農業参入</p>	<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>販売促進 イベント開催 メディア活用</p>	<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>スマート農業の導入</p>	<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>基礎整備 水不足対策</p>
活動のエンジンとなる組織の育成強化			

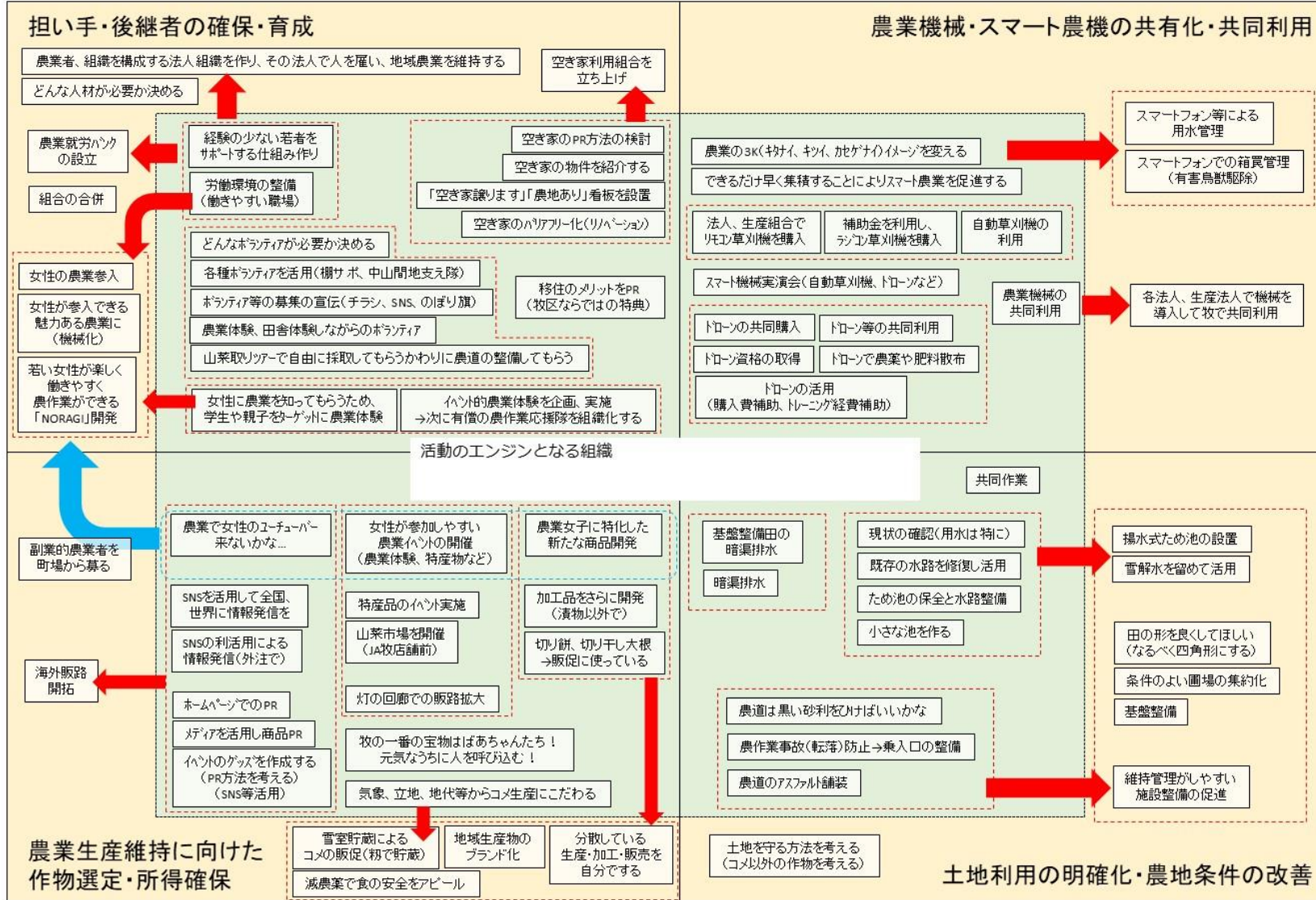
## 第2回会議で個々のグループで出された意見を

第2回牧区みらい農業づくり会議  
令和4年3月23日(水) Cグループ

担い手・後継者の確保・育成	農業生産維持に向けた作物選定・所得確保	農業機械・スマート農機の共有化・共同利用	土地利用の明確化・農地条件の改善
<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空き家を活用した移住の手法を検討します。</li> <li>ボランティアの募集・受入体制を整備します。</li> <li>女性の農業参入を促進するため、環境を整備し、将来的には、農業で集落内外の人材を雇用します。</li> </ul>	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>牧区自然を活用した販売促進、イベントの開催を検討します。</li> <li>様々なメディア(媒体)を使用し、牧区の魅力や歴史、商品をPRします。</li> </ul>	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各生産組合・農事組合法人で連携し、スマート農業の導入を検討します。</li> </ul>	<p>【将来に向けた方向性(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>将来的に、基礎整備(農地・農道・水路・ため池)の構想を検討します。特に水不足に対応するため、既存のため池の有効利用も含めて、用水の確保をします。</li> </ul>
<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>空き家活用 ボランティアの募集・受入体制 女性の農業参入</p>	<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>販売促進 イベント開催 メディア活用</p>	<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>スマート農業の導入</p>	<p>【今から取り組むべきもの】</p> <p>基礎整備 水不足対策</p>
活動のエンジンとなる組織の育成強化			

牧区みらい農業づくり会議

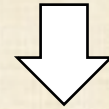
牧区らしさである自然・棚田・人情を活かし、SNSでのPRにより、美味しさを世界へお届けします



集約化した上で、整理

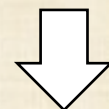
同じ取組でも、

- ・「今」「将来」の双方にある
- ・複数のテーマにまたがっている



その取組が属するべきと思われる「テーマ」「時間軸」をグループごとに話し合って整理

活動のエンジンとなる組織のイメージを整理



グループワークの材料

# 県事業等による取組の概要

地域 自治区	取組手法 (実施主体)	会議の名称	取組概要	これまでの取組	今後の予定
浦川原区	フューチャー デザイン・ ワークショップ (明治大学)	浦川原区みらい 農業づくり会議	参加者が「現代世代」と「仮想将来世代」になりきり、地域が抱える課題への対応策検討をそれぞれの視点で議論することにより、長期的な視点に立った対応策を見出す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度にワークショップを2回開催</li> <li>地域の資源や取り組むべき方策について洗い出すとともに、「未来人」の視点で「残したいもの」「変えてはならないもの」などを議論した。</li> </ul>	令和3年度に議論した内容を、他の地区同様に課題解決に向けた5つのテーマ別に振り分け、必要な取組の設定・共有を行う。
中郷区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	中郷区農業の 未来を考える会	<p>参加者が、人口推計に基づく地域の人口減少危機を具体的に把握した上で、地域の維持に向けた定住目標や活性化の取組を検討し、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現状分析 人口推計に基づいて予測される将来の人口と農業者の減少を緩和する「人口安定化シナリオ」(定住目標)や、地域の人的資源を洗い出す「地元関係図」を作成</li> <li>将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。</li> <li>将来プランの実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2・3年度に計9回のワークショップを開催し、「将来プラン」を策定</li> <li>重点取組項目として、「中郷ブランドづくり」「都市農村交流の促進」「女性の活躍の場創出」「必要な体制づくりや広域連携」を見出した。</li> </ul>	令和3年度に定めた「将来プラン」に基づき、年次計画で各種の取組を実践
清里区	ビレッジプラン 2030 (新潟県)	「きよさと未来予想図」を作る会	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来プランの作成 現状分析を踏まえ、定住目標を達成するための各種取組や必要な組織づくりなどを定める。</li> <li>将来プランの実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年度にワークショップを6回開催</li> <li>地元関係図の作成過程から、基本的な方針として、地域の維持に必要なサービス(就労場所)を提供する3つの広場(山・農・村)の形成を目指すこととした。</li> </ul>	令和3年度の議論を踏まえ、「将来プラン」への昇華を目指し、参加者による区内踏査(6月)や、モデル事業の実施(10月)を予定

## 視察研修についての要望調査

委員名： \_\_\_\_\_

1 視察研修のご希望の日程についてご記入ください  
月（上・中・下）

2 視察希望についてご記入ください

番号	テーマ	視察先	研修内容
	(例) 災害復興とまちづくり	(例) 糸魚川市 復興まちづくり情報センター	(例) ・糸魚川市駅北大火からの復興支援の在り方 ・復興にとどまらない地域活性化の在り方
1			
2			
3			

3 過去の視察地（参考）

年 度	視察先	研修内容
令和3年度	未実施	(※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)
令和2年度	・地域活動支援事業実施箇所 ・危険箇所及び公共施設	地域活動支援事業実施箇所の視察 等
令和元年度	・陸上自衛隊高田駐屯地 ・直江津LNG基地	災害発生時の対応について 等
平成30年度	・中郷区まちづくり振興会 ・上越市議会事務局 ・上越市 自治・地域振興課	・中郷区まちづくり振興会の取組説明 ・議場見学 ・上越市地域協議会の現状説明・意見交換
平成29年度	・牧区内危険箇所 ・十日町市池谷集落 (NPO法人地域おこし)	・区内の災害発生箇所や危険箇所の現地視察 ・少子高齢化が進んだ地域の集落維持の方策
平成28年度	未実施	-
平成27年度	長野県飯山市	空き家対策、新幹線駅開業に伴う観光動向
平成26年度	長野県佐久市	ぴんころ運動推進事業 等
平成25年度	長岡市	まちの駅、指定管理者制度 等
平成24年度	富山県南砺市	棚田オーナー、地域おこし協力隊 等